

(別記)

令和4年度赤村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当協議会管内は福岡県の東南部に位置している中山間地域である。作付品目としては、米、飼料用米、WCS用稲、麦、大豆、そば、花卉、野菜である。近年、経営の発展を図るため、一部の農家で施設園芸を導入した複合経営が盛んとなっている。

しかし、農業者の高齢化が年々進行しているため、農家の減少や労働力不足により、農地の維持管理が年々困難になっている状況にある。また鳥獣被害が増加しており、自己保全が増加傾向にある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少する中で主食用米以外の作物への転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。本村では、主食用米からの転換作物として、飼料用米、WCS用稲、麦、大豆、そば、花卉、野菜の導入にて高収益作物や転作作物の拡大を目指している。

特に飼料用米、麦、大豆については、営農組合や農事組合法人が作付拡大の取組をしている品目であるため、組織と連携し産地交付金を活用することで、さらなる面積の拡大を目指している。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

生産者からの営農計画書の記載事項や水田台帳に基づくほ場の現地確認等により、畑作物のみの生産が続く水田や調整水田、また長期間水稻の作付がない水田がないか等水田利用状況の点検を行う。その結果、今後も水稻作付の見込みがない水田について、水田の畑地化について検討・推進を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本としつつ、消費者ニーズに応えるため、栽培方法、品種等の統一を進めていくとともに、赤村米麦共同乾燥調整施設の利用を促進し、集荷率を向上させることにより必要なロット確保と均質化を図る。

このような取組の推進により、実需者や消費者からの産地評価を高めて需要の確保を図りつつ、生産者等の主体的経営判断により需要に応じた生産に努める。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、担い手による作付を支援するとともに複数年契約での多収性品種の作付けを推進し、収量増加による農家所得の向上を目指す。

イ 米粉用米

現在、村内で作付農家はないが、農家所得の向上と新たなニーズの開拓、また主食用米

にかわる作物として推奨していく。

ウ WCS 用稲

産地交付金を活用して、担い手による作付を支援するとともに耕種農家と畜産農家の連携強化により生産拡大を図り、さらには両者間での長期契約による安定した生産供給体制の構築を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆の生産性向上を推進しながら、ブロックローテーションに取り組んでいる組合は、作付け面積を維持できるように取り組む。

また、収穫時期が水稻作付と競合するため団地化栽培を基本とし、産地交付金を活用しながら二毛作作付率を向上させ、作付面積の拡大を図る。

(4) そば、なたね

実需者との契約に基づき、今後、そばの作付けを推進する。

(5) 高収益作物

水田に助成対象となる花卉を作付けしている担い手を対象とし、経営面積の拡大、品質を高めて、需要の確保を図りつつ、生産者等の主体的経営判断により需要に応じた生産に取り組む。また、今後の赤村の将来を見据え、地域振興作物として白菜、トマト、キクを推奨していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	186.1	0.0	152.7	0.0	150.3	0.0
飼料用米	20.8	0.0	20.8	0.0	20.8	0.0
WCS用稲	3.4	0.0	4.1	0.0	4.1	0.0
麦	33.7	33.4	51.7	51.5	56.7	56.5
大豆	33.8	0.0	45.3	0.0	50.3	0.0
高収益作物	21.5	0.0	22.0	0.0	23.0	0.0
・ 野菜	15.0	0.0	15.5	0.0	16.0	0.0
・ 花き・花木	0.5	0.0	0.5	0.0	1.0	0.0
・ 果樹	6.0	0.0	6.0	0.0	6.0	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標	前年度（実績） （令和３年度）	目標値 （令和５年度）
1	飼料用米	複数年契約加算（多収品種） （基幹）	複数年契約取組面積・数量	18.6ha・88.9t	18.6ha・88.9t
			作付面積・数量	18.6ha・88.9t	18.6ha・88.9t
2	WCS用稲	耕畜連携（資源循環）助成 （耕畜連携）	粗飼料作物作付面積	3.4ha	(3.4ha) 4.0ha
			堆肥散布面積	3.4ha	(3.4ha) 4.0ha
			実施率	100%	100%
3	大豆	大豆担い手助成（基幹）	作付面積	33.8ha	(29.8ha) 50.3ha
			新規作付者	0人	1人
4	キク	地域振興作物助成（基幹）	取組面積	0.5ha	1.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は３年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:赤村地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	複数年契約加算(多収品種)(基幹)	1	6,000	飼料用米	多収品種の導入
2	耕畜連携(資源循環)助成(耕畜連携)	3	4,436	WCS用稲	当該年度における堆肥散布の取り組み
3	大豆担い手助成(基幹)	1	2,524	大豆	農協等または、実需者との出荷・販売契約を締結し大豆の作付け
4	地域振興作物助成(基幹)	1	5,175	キク	キクの作付け支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。